Business Report

ONO'S VIEW

第72期 第2四半期のご報告

2019年4月1日～2019年9月30日

小野薬品工業株式会社

証券コード 4528

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、
真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第72期第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が昨年11月の薬価見直しや特に肺がん領域での競合品との競争激化の影響を受けたものの、腎細胞がん等で使用が拡大するとともに、糖尿病治療剤「フォシーガ錠」、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」などの主要新製品が堅調に推移しました。また、オプジーボに係るロイヤルティ収入が増加したことで、売上収益は増収となりました。

利益面につきましても、創薬提携に係るライセンス料などの減少により研究開発費が前年同期より減少、また、営業経費が前年同期よりも減少したことにより販売費及び一般管理費が減少した結果、増益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下する中で、研究開発費用は増加しています。一方で、医療費抑制のための種々の薬剤費抑制政策も推し進められており、新薬開発型製薬企業にとっては厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、今後の海外事業の拡大にむけて、次のとおり取り組んでいきます。

成長戦略

製品価値最大化	積極的な研究開発活動により、早期の上市および効能追加取得を目指すとともに、上市から最短でのピークセールス達成を図ります。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現することにより、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。
研究開発体制の変革	独自の創薬アプローチ「化合物オリエント」をベースに、医療ニーズの高いがんや免疫疾患、中枢神経疾患、スペシャリティ領域を重点領域に捉えて、医療現場に革新をもたらす新薬の創出を目指します。そのために、特定の研究分野で世界をリードする大学や研究機関、バイオベンチャー企業との研究・創薬提携を強化・拡充し、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得も積極的に進めています。
海外への挑戦	自社で生み出した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗悪性腫瘍剤などのスペシャリティ製品について、海外での自社販売を目指して取り組んでいます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、欧米については、今後の自社販売を視野に入れ、開発も含めて体制の整備・強化に努めています。
企業基盤の強化	海外市場での事業を拡大し、厳しい企業間競争を勝ち抜くため、企業基盤の強化に取り組んでいます。さまざまな環境の変化に対応し、競争に打ち勝つため、人財育成や多様性向上を進めるなど、体制強化を図っています。すべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たすべく、重点課題での活動を推進しています。

　わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

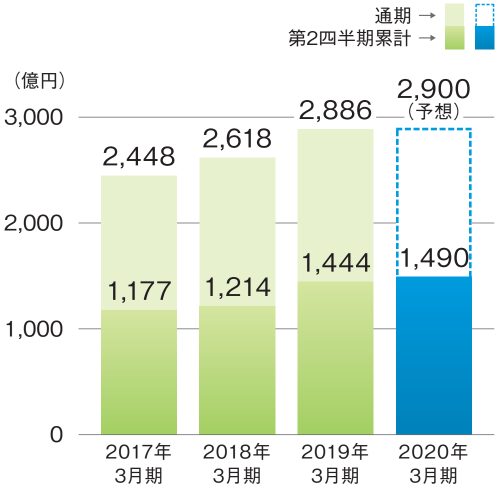
代表取締役社長　相良 暁

1968年（昭和43年）に中央研究所（現在の水無瀬研究所）の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

営業の概況（連結IFRS）

売上収益

1,490億円 前年同期比 **3.2%増**

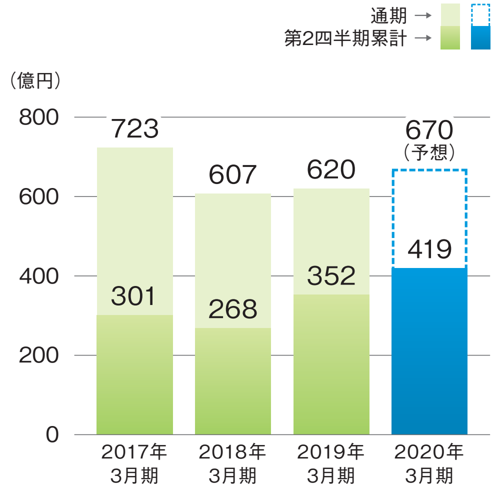


主要新製品が堅調に推移するとともに、ロイヤルティ収入の増加で増収

オレンシア皮下注、フォシーガ錠などの主要新製品が堅調に推移するとともに、オプジーボ点滴静注について消費税増税に伴う薬価改定による仮需要などがあり、製品商品の売上が前年同期比18億円増加しました。また、オプジーボに係るロイヤルティ収入も増加した結果、当第2四半期累計期間の売上収益は前年同期比46億円（3.2%）増の1,490億円となりました。

営業利益

419億円 前年同期比 **19.1%増**

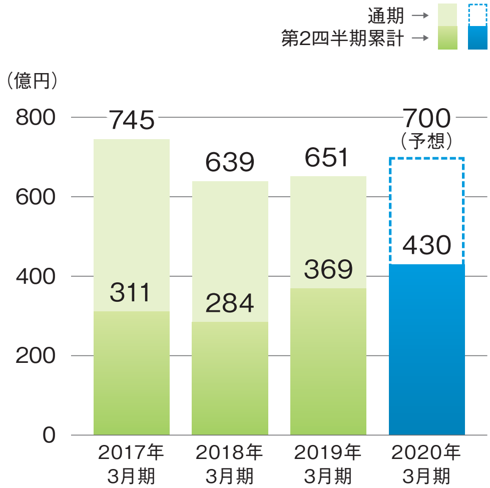


売上収益が増加、販売費及び一般管理費が減少したことで増益

売上収益が増加したこと、また、創薬提携に係るライセンス料等の減少による研究開発費の減少、営業経費の減少などによる販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）が減少したことにより、当第2四半期累計期間の営業利益は前年同期比67億円（19.1%）増の419億円となりました。

税引前四半期利益

430億円 前年同期比 **16.6%増**

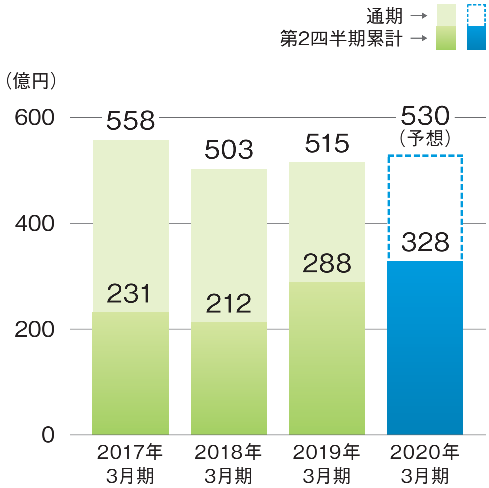


金融収支等が前年同期よりも減少するも、営業利益増により増益

金融収支等は前年同期比6億円減の12億円となったものの、当第2四半期累計期間の税引前四半期利益は、前年同期比61億円（16.6%）増の430億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

328億円 前年同期比 **13.8%増**



税引前四半期利益の増加に伴い増益

当第2四半期累計期間の親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比40億円（13.8%）増の328億円となりました。

連結業績ハイライト

財政状態

（単位:百万円）

	前期末 2019年3月31日	当第2四半期会計期間末 2019年9月30日
流動資産	194,617	209,933
非流動資産	460,439	432,191
資産合計	655,056	642,125
負債合計	92,321	87,176
資本合計	562,736	554,948
負債及び資本合計	655,056	642,125

損益の状況

（単位:百万円）

	前第2四半期累計期間 自2018年4月1日 至2018年9月30日	当第2四半期累計期間 自2019年4月1日 至2019年9月30日
売上収益	144,395	149,008
売上総利益	102,767	107,340
販売費及び一般管理費	△34,206	△33,734
研究開発費	△33,048	△30,935
営業利益	35,151	41,878
税引前四半期利益	36,917	43,042
四半期利益	28,883	32,915
親会社の所有者に帰属する四半期利益	28,845	32,816

連結持分変動計算書（要旨）

（単位:百万円）

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分	非支配持分	資本合計
2019年4月1日残高	17,358	17,202	△38,151	61,852	499,088	557,350	5,386	562,736
四半期包括利益合計	–	–	–	450	32,816	33,266	89	33,354
所有者との取引額等合計	–	14	△29,584	△460	△11,107	△41,138	△3	△41,142
2019年9月30日残高	17,358	17,215	△67,735	61,841	520,797	549,477	5,471	554,948

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。https://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir_library.html 小野薬品 IR 検索

キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

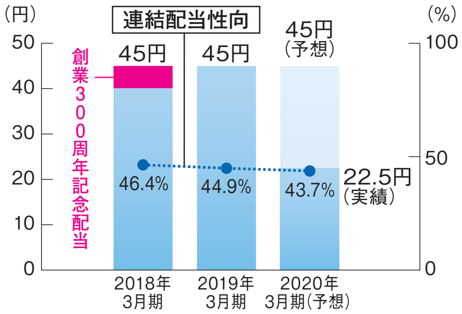
	前第２四半期累計期間 自2018年4月１日 至2018年9月30日	当第２四半期累計期間 自2019年4月１日 至2019年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,591	34,875
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,952	2,681
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,514	△42,218
現金及び現金同等物の増減額	13,125	△4,662
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	129	△247
現金及び現金同等物の四半期末残高	78,527	55,072

主要経営指標

	前期末 2019年3月31日	当第２四半期会計期間末 2019年9月30日
親会社所有者帰属持分比率（％）	85.1	85.6
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	1,084.08	1,100.89
	前第２四半期累計期間 自2018年4月１日 至2018年9月30日	**当第２四半期累計期間** 自2019年4月１日 至2019年9月30日
基本的1株当たり四半期利益（円）	56.11	64.58

中間配当金について

〈年間配当実績と当期予想〉



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき22.5円とさせていただきました。なお、当期の期末配当金につきましても、1株につき22.5円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき45円を予定しています。

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期売上高(実績)(億円)	対前年同期増減率	2018年度売上高(実績)(億円)	2019年度売上高(見込み)(億円)	対前期増減率
オプジーボ点滴静注	468	+3.1%	906	850	△6.2%
グラクティブ錠	133	△3.3%	269	265	△1.5%
オレンシア皮下注	100	+16.0%	174	190	+9.0%
フォシーガ錠	87	+24.4%	145	165	+13.8%
イメンド／プロイメンド	59	+10.4%	106	115	+8.4%
リバスタッチパッチ	44	△3.7%	89	95	+6.8%
オパルモン錠	45	△19.2%	104	90	△13.1%
パーサビブ静注透析用	35	+28.4%	57	70	+22.4%
カイプロリス点滴静注用	29	+13.5%	49	55	+11.8%
リカルボン錠	26	△41.1%	73	50	△31.9%
オノアクト点滴静注用	24	+12.6%	46	45	△1.8%
オノンカプセル	16	△18.3%	44	35	△19.9%
ステーブラ錠	16	△15.4%	37	35	△5.3%
オノンドライシロップ	10	△14.2%	27	20	△25.9%

HCNチャネル遮断剤「コララン®錠」製造販売承認取得

2019年9月に、心拍数が高い慢性心不全の患者さんに対する新しい治療薬としてHCNチャネル遮断剤である「コララン®錠」の製造販売承認を取得しました。本剤は、心臓の洞結節に発現するHCNチャネルを遮断することで、血圧に影響することなく心拍数のみを減少させる新しい作用機序の経口剤です。

慢性心不全の患者さんは、心臓が十分な血液量を拍出できないことを補うために心拍数が高くなる傾向にあり、それが長期にわたり継続すると心臓にさらに負担がかかります。また、高い心拍数は慢性心不全患者さんの予後に悪影響を及ぼすことが知られています。コララン錠は、β遮断薬を含む既存の慢性心不全治療薬を服用しても心拍数が高い患者さんに対して、新たな治療選択肢になるものと期待されています。

通期の見通し（2020年3月期）

売上収益

2,900億円 前期比 **0.5%増**

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、腎細胞がん、胃がん、頭頸部がんでの使用拡大を見込むものの、昨年11月の薬価見直しの影響や肺がんでの新規使用患者数の減少から、売上は850億円（前期比56億円の減少）の見込みです。一方、ロイヤルティ収入の増加などから、通期の売上収益は前期比14億円（0.5%）増の2,900億円を予想しています。

営業利益

670億円 前期比 **8.0%増**

売上原価は、前期に発生した一時的な負担金が当期には発生しないことなどから68億円減少する見込みです。一方、持続的成長のための研究開発費の増加、新製品やオプジーボ関連の活動経費の増加に伴う販売費及び一般管理費の増加を見込んでいることから、通期の営業利益は前期比50億円（8.0%）増の670億円を予想しています。

税引前当期利益

700億円 前期比 **7.5%増**

金融収支は前期比1億円減少の30億円を見込んでおり、通期の税引前当期利益は前期比49億円（7.5%）増の700億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

530億円 前期比 **2.8%増**

税引前当期利益が増加を見込む一方で、試験研究費の税額控除額の減少に伴う法人税の増加を見込んでおり、通期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比15億円（2.8%）増の530億円を予想しています。

開発品の主な進捗状況

（2019年10月25日現在）

■ がん領域

製品名（開発コード）／一般名	剤型	予定効能	開発ステージ PⅠ	PⅡ	PⅢ	申請	地域
ONO-7643／アナモレリン	錠	がん悪液質				→	日本
カイプロリス点滴静注用	注射	多発性骨髄腫（用法・用量変更）				→	日本
オプジーボ点滴静注	注射	結腸・直腸がん（MSI-H）			 →	→ 	日本 欧州
		食道がん			 →	→ 	日本 欧米・韓国・台湾
		食道胃接合部がん及び食道がん			→		日本・欧米・韓国・台湾
		小細胞肺がん			→		日本・欧州・韓国・台湾
		肝細胞がん			→		日本・欧州・韓国
		膠芽腫			→		日本・欧米
		尿路上皮がん			→		日本
		卵巣がん			→		日本・欧米
		膀胱がん			→		日本・欧米・韓国・台湾
		胃がん			→		欧米
		悪性胸膜中皮腫			→		欧米
		多発性骨髄腫			→		欧米
		固形がん（子宮頸がん、子宮体がん及び軟部肉腫）		→			日本
		中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫		→			日本・欧米
		膵がん		→			日本・欧米・韓国・台湾
		びまん性大細胞型B細胞リンパ腫		→			欧米
		濾胞性リンパ腫		→			欧米
		前立腺がん		→			欧米
		ウィルス陽性・陰性固形がん		→			日本・欧米・韓国・台湾
		固形がん（トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵がん、小細胞肺がん、尿路上皮がん、卵巣がん）		→			欧米
		胆道がん	→				日本
		血液がん（T細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性白血病、他）	→				欧米
		慢性骨髄性白血病	→				欧米
ONO-4059／チラブルチニブ	錠	中枢神経系原発リンパ腫				→	日本
		原発性マクログロブリン血症／リンパ形質細胞リンパ腫		→			日本
		B細胞リンパ腫	 →	→ 			欧州 米国
ヤーボイ点滴静注液★	注射	非小細胞肺がん			→		日本・韓国・台湾
		小細胞肺がん			→		日本・韓国・台湾
		頭頸部がん			→		日本・韓国・台湾
		胃がん			→		日本・韓国・台湾
		悪性胸膜中皮腫			→		日本
		食道がん			→		日本・韓国・台湾
		尿路上皮がん			→		日本・韓国・台湾
		結腸・直腸がん（MSI-H）			→		日本
		肝細胞がん			→		日本・韓国・台湾
		ウィルス陽性・陰性固形がん		→			日本・韓国・台湾

製品名(開発コード)/一般名	剤型	予定効能	開発ステージ PI	PⅡ	PⅢ	申請	地　域
ビラフトビカプセル	カプセル	結腸・直腸がん			→		日本・韓国
		悪性黒色腫			→		韓国
メクトビ錠	錠	結腸・直腸がん			→		日本・韓国
		悪性黒色腫			→		韓国
ONO-7701★/Linrodostat	錠	膀胱がん			→		日本・韓国・台湾
ONO-4687★/Cabiralizumab	注射	膵がん		→			日本・韓国・台湾
ONO-4686★	注射	固形がん		→			日本
ONO-4482★/Relatlimab	注射	悪性黒色腫		→			日本
ONO-7807★	注射	固形がん		→			日本
ONO-4578★	錠	固形がん		→			欧米
			→				日本
ONO-4483★/Lirilumab	注射	固形がん	→				日本
ONO-7705/Selinexor	錠	多発性骨髄腫及び非ホジキンリンパ腫	→				日本
ONO-7475	錠	固形がん★	→				日本
		急性白血病	→				米国
ONO-7911★/Bempegaldesleukin	注射	固形がん	→				日本

※抗がん剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、各地域で最も進んでいる開発ステージを記載しています。
★「オプジーボ」との併用試験

がん領域以外

製品名(開発コード)/一般名	剤型	予定効能	開発ステージ PI	PⅡ	PⅢ	申請	地　域
ONO-2370/オピカポン	錠	パーキンソン病				→	日本
オレンシア点滴静注用 オレンシア皮下注	注射	関節リウマチにおける関節の構造的損傷防止				→	日本
オノアクト点滴静注用	注射	敗血症に伴う頻脈性不整脈				→	日本
		心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)			→		日本
オレンシア皮下注	注射	未治療の関節リウマチ			→		日本
		一次性シェーグレン症候群			→		日本
		多発性筋炎・皮膚筋炎			→		日本
ONO-5704	注射	変形性関節症			→		日本
		腱・靭帯付着部症		→			日本
ONO-4059/チラブルチニブ	錠	天疱瘡		→			日本
		シェーグレン症候群		→			欧米
ONO-7269	注射	脳梗塞	→				日本
ONO-4685	注射	自己免疫疾患	→				日本
ONO-5788	カプセル	先端巨大症	→				米国
ONO-7684	錠	血栓症	→				欧州

提携活動

■ ラファエル社とライセンス契約締結

2019年6月に、米国ラファエル社と同社が開発中のがん代謝阻害剤である「CPI-613（devimistat）」およびその関連化合物について、日本、韓国、台湾およびASEAN諸国での独占的な開発および商業化を目的とするライセンス契約を締結しました。

ラファエル社は、がん代謝阻害剤の分野を牽引している非上場の企業で、治療困難ながんに有効な新規の治療薬の開発に取り組んでいます。

ラファエル社

Devimistatは、細胞の増殖および生存に必要であるTCAサイクルを標的としてがん細胞を選択的に阻害します。また、がん細胞において化学療法剤に対する感受性を大幅に高めることから、低用量の化学療法剤と併用することで、化学療法剤の治療で一般的に認められる副作用を軽減しつつ有効性を高めることが期待できます。

■ フォーティ セブン社とライセンス契約締結

2019年7月に、米国フォーティ セブン社と同社が様々ながん腫を対象に開発中の抗CD47抗体である「5F9（magrolimab）」について、日本、韓国、台湾およびASEAN諸国で独占的に開発および商業化するライセンス契約を締結しました。

フォーティ セブン社は、がん細胞の免疫回避機構を標的とした腫瘍免疫薬を開発している企業です。

Magrolimabは、抗CD47モノクローナル抗体で、がん細胞がマクロファージからの貪食作用を回避するシグナルを無効化します。現在は、急性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫、卵巣がん、大腸がんなどを対象に臨床試験が実施されています。

フォーティ セブン社

CSRへの取り組み

■ 2050年に向けた中長期環境ビジョンを策定

当社は、2050年に向けた中長期環境ビジョン「Environment Challenging Ono Vision（ECO VISION 2050）」を策定しました。革新的な医薬品の創製という当社の事業活動が、健全な地球環境に支えられて成り立っていることを認識し、環境課題の解決に向けた取り組みを強化することが企業の責任であり、持続的な事業活動の基盤構築にもつながると考えています。人々が健康で健全な社会を迎えられるよう、2050年を見据えて環境負荷低減への取り組みを推進していきます。

■「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」から承認取得

2019年8月に、当社が「ECO VISION 2050」に基づいて策定した中長期的な温室効果ガス削減目標※1が、科学的根拠に基づいていると認められ、国際的な環境団体である「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」から承認を取得しました。

※1 当社の中長期的な温室効果ガス削減目標
- 温室効果ガスの排出量（スコープ1+2）を2017年度と比較し、2030年度までに50%削減、2050年度までにゼロにする。
- 温室効果ガスの排出量（スコープ3）を2017年度と比較し、2030年度までに30%、2050年度までに60%削減する。

スコープ1：自社での燃料使用や研究・生産プロセスからの温室効果ガス直接排出量
スコープ2：自社が購入した電気や熱の使用による温室効果ガス間接排出量
スコープ3：スコープ1、2以外の温室効果ガス間接排出量（原料調達、製品輸送・使用・廃棄、社員の通勤・出張等）

■「気候関連財務情報開示タスクフォース」の提言に賛同

2019年10月に、当社は「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への賛同を表明しました。「ECO VISION 2050」の実現に向けた取り組みを進めるとともに、気候関連リスクと機会に関する評価や管理を行い、適切な情報開示を行っていきます。

会社の概要 （2019年9月30日現在）

■会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年（1717年）
設立	昭和22年（1947年）
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,604名（連結）　3,329名（単体）

■主要な事業所

本社	〒541-8564 大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号 電話　06-6263-5670 ［登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号］
事業所	北海道、宮城、東京、埼玉、愛知、京都、大阪、香川、広島、福岡ほか全国主要都市
工場	城東工場（大阪府）、フジヤマ工場（静岡県）、山口工場 ※2020年稼働予定
研究所	水無瀬研究所（大阪府）、福井研究所、筑波研究所（茨城県）
海外子会社	オノ・ファーマ・ユーエスエー インク（米国ニュージャージー州） オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド（英国ロンドン） 韓国小野薬品工業株式会社（韓国ソウル） 台灣小野藥品工業股份有限公司（台湾台北）

■役員

代表取締役 取締役社長	相良　暁
取締役 副社長執行役員	粟田　浩
取締役 専務執行役員	佐野　敬
取締役 常務執行役員	川𣿬和一十
取締役 常務執行役員	小野功雄
社外取締役	加登　豊
社外取締役	栗原　潤
社外取締役	野村雅男
常勤監査役	西村勝義
常勤監査役	藤吉信治
社外監査役	作花弘美
社外監査役	菱山泰男

■株式数

1. 発行可能株式総数 ………………… 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 ………………… 543,341,400株
(自己株式44,158,229株を含む)

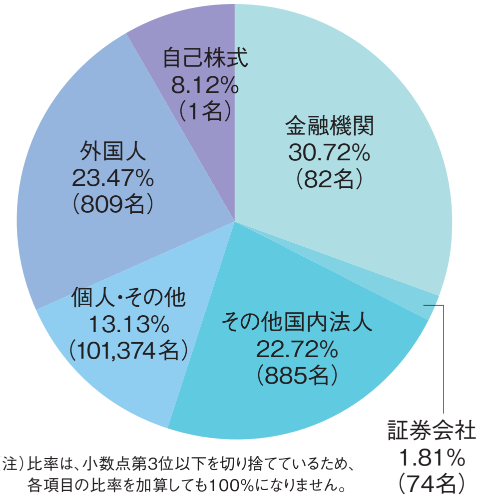
■株主数 ……………………………… 103,225名

■大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	36,135	7.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,254	5.05
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	20,270	4.06
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.72
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.29
株式会社鶴鳴荘	16,161	3.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	9,461	1.89
株式会社三菱UFJ銀行	8,640	1.73
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,606	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	7,408	1.48

(注)1. 当社は自己株式44,158千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式(44,158千株)を控除して算出しています。

■所有者別の株式分布状況

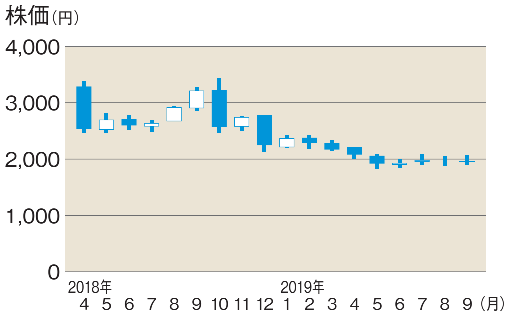


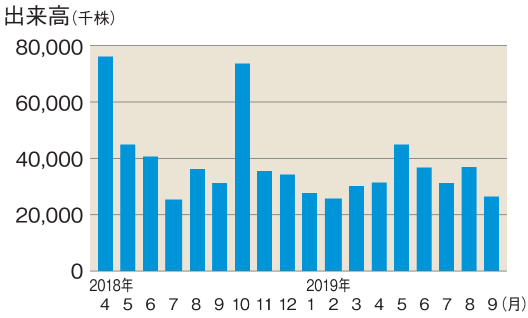
(注)比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

■その他株式に関する重要な事項

当社は、2019年5月30日付の取締役会決議に基づき、自己株式を15,000,000株取得し、10月31日付で取得した自己株式の全株を消却しました。これにより、発行済株式の総数は528,341,400株となりました。

■株価および株式売買高の推移





株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス https://www.ono.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先および各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますので、
株主様のマイナンバーにつきましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、株主様のマイナンバーは支払調書に記載して税務署へ提出いたします。

■ マイナンバーを記載する主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

■ 証券口座にて株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問合せください。

■ 証券会社とのお取引がない株主様

下記のフリーダイヤルまでお問合せください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031（フリーダイヤル）

ホームページアドレス
https://www.ono.co.jp/

2019.11